

巻き爪だと思っていいたら… 他の疾患かもしれない

城山病院 形成外科副部長 三倉文子医師

城山病院形成外科が行っている巻き爪治療『VHO式矯正技術』※には多くの患者さんが来院される。「その中には巻き爪ではなく、他の疾患の患者さんも非常に多いのです」と三倉医師は言う。巻き爪と間違いやすい疾患について三倉医師に話を聞いた。

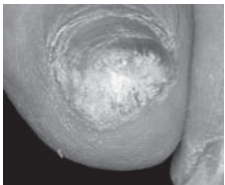


巻き爪

爪白癬

一番多いのが足の爪の水虫、爪白癬です。

私たちが爪と呼んでいる部分は爪甲(そうこう)と言い、爪甲を乗せている部分を爪床と言います。爪が白癬菌に蝕まれ、爪甲が爪床から離れて浮き、爪がもろく厚くなる感染症が爪白癬です。罹患していることを知らずに放置し、変形した爪が布団にひっかかって出血したり、周辺の皮膚に爪が埋もれるなどの症状を見て「巻き爪だ」と勘違いして来院されます。この疾患は皮膚科で外用薬と内服薬を用いた治療で完治します。若い方はそれでよいのですが、問題は高齢者の方の場合です。内服薬は肝機能低下のリスクが高いため高齢の方には使用が困難です。当然、治るまで時間がかかり、その間のケアが非常に重要になってきます。



爪白癬

基本的には足をよく洗い、清潔にして、正

しく爪を切り、爪の根元に外用薬を塗ることでです。

爪周囲炎

瘻疽(ひょうそ)とも言います。逆剥けなどから細菌に感染し、爪の際の皮膚が腫れて不良肉芽ができ、爪甲の端が刺さるような状態になります。これは巻き爪ではありませんが、巻き爪でも深爪をして爪周囲炎を起こす場合もあります。この場合は爪甲の下に薄いスポンジ状のクッションを入れて爪の端を引き出して炎症を抑えます。



爪の際にできた不良肉芽

外反母趾による爪の変形など

これもよくあるケースです。爪の変形を防ぐ前に親指と人差し指の間にクッションを入れ、靴に側底板を入れるなどして親指の湾曲を矯正をします。

他に巻き爪と間違われる他のケースは、爪

に衝撃を受けて変形した場合、足の甲に外傷や炎症を起こし、爪の角が皮膚に食い込む場合もあります。どちらにしろ、「巻き爪かも？」と思われるなら専門医にかかってください。

正しい爪の切り方が大切です

足の爪は1ヶ月に1ミリ程度しか伸びないため、切れない爪切りで「パチン」とやるのはいけません。お勧めするのはやすりで削めることです。週に1回、指先の肉にやすりを当てて真横に動かして削ります。そうすれば深爪になりません。高齢者の方は身体が固く、足の爪をうまく切れないことが多いので注意してください。

※VHO式巻き爪矯正技術

深爪による陥入爪や内側に異常に湾曲する巻き爪に合わせ専用スチール銅を切り、湾曲させて爪の左右に引っ掛けてフックで巻き上げ固定して矯正する方法。施術が早く、爪や皮膚を損傷を与えず、患者さんの満足度が非常に高い技術です。

